

# サザエの生息状況調査 (小泊地先)

宝多 森夫・笹原 一雄・川村 要  
松宮 隆志 (鯨ヶ沢地方水産改良普及所)

## 1 調査時期

昭和59年12月および昭和60年1月  
(午前9時～午後4時)

## 2 調査場所

小泊村地先の磯根58地点 (第1図)

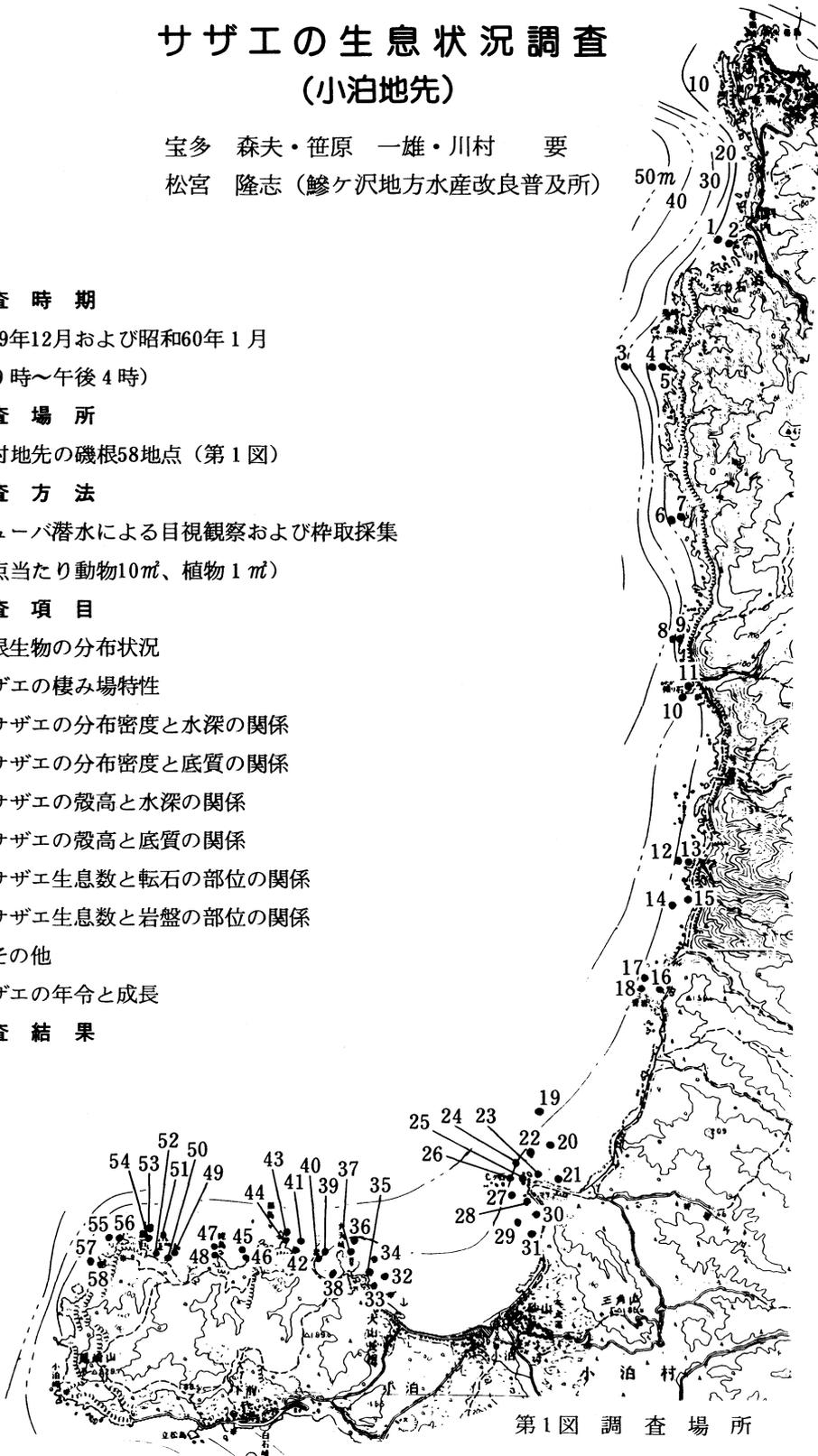
## 3 調査方法

スキューバ潜水による目視観察および採取  
(1地点当たり動物10㎡、植物1㎡)

## 4 調査項目

- (1) 磯根生物の分布状況
- (2) サザエの棲み場特性
  - a. サザエの分布密度と水深の関係
  - b. サザエの分布密度と底質の関係
  - c. サザエの殻高と水深の関係
  - d. サザエの殻高と底質の関係
  - e. サザエ生息数と転石の部位の関係
  - f. サザエ生息数と岩盤の部位の関係
  - g. その他
- (3) サザエの年令と成長

## 5 調査結果



第1図 調査場所



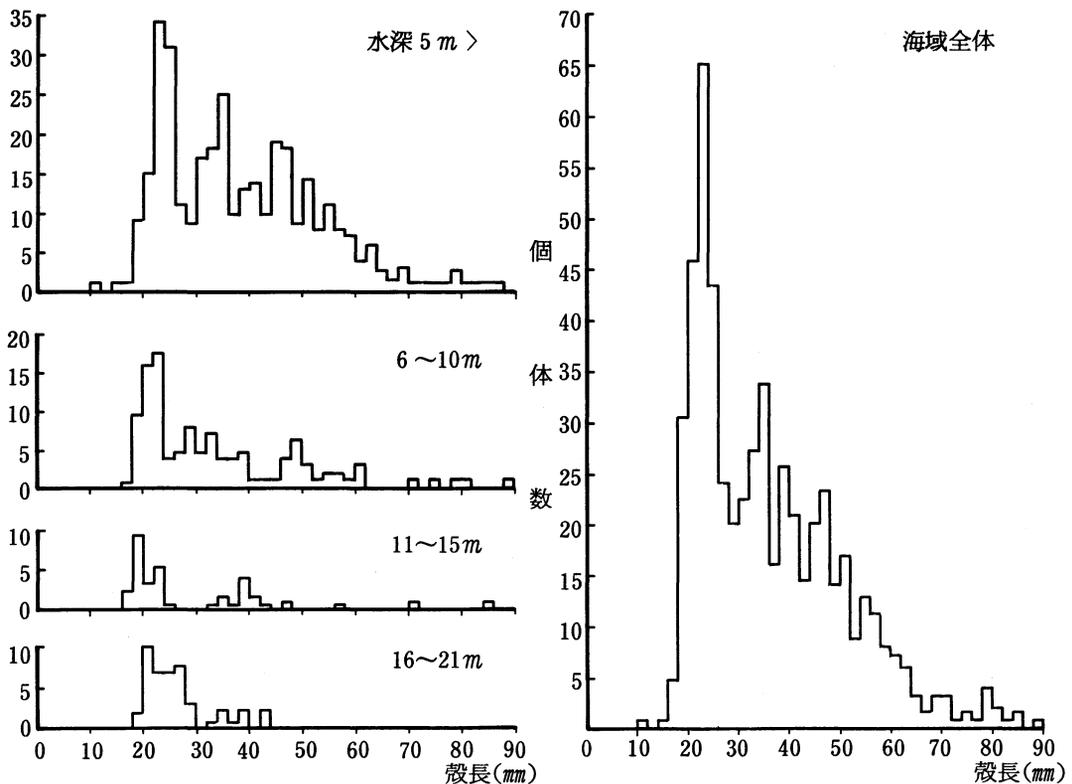


(1) 磯根生物の分布状況

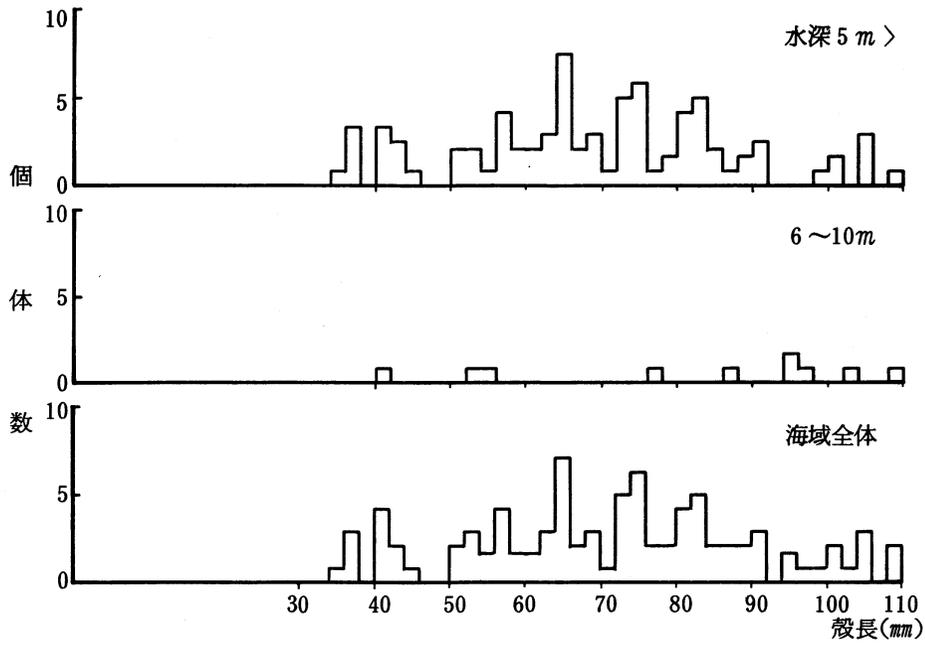
第1図に示す調査点における杵取調査結果を番1表に示した。

本地先の磯根動物としては、アワビ・アカウニ・キタムラサキウニ（ムラサキウニについては、その特徴の顕著なものは採捕されなかった。）・バフンウニ（エゾバフンウニが含まれたかどうかについては不明である。）・イトマキヒトデ・ヒトデ・アカヒトデ・サザエ・マボヤ・ナマコ・ミガキボラ・エゾイガイ・クモヒトデ類・ウミシダ類および小型巻貝類等の分布がみられ、特にアカウニ・キタムラサキウニ・バフンウニ・イトマキヒトデおよびサザエは砂域を除くほぼ全域に分布する。優占種は概ね、キタムラサキウニ・バフンウニおよびサザエであった。サザエ・アワビおよびキタムラサキウニの殻高、殻長および殻径組成を第2図～第4図に示した。なお過去に当海域で分布が確認されているトコブシは、本調査では採捕されなかった。

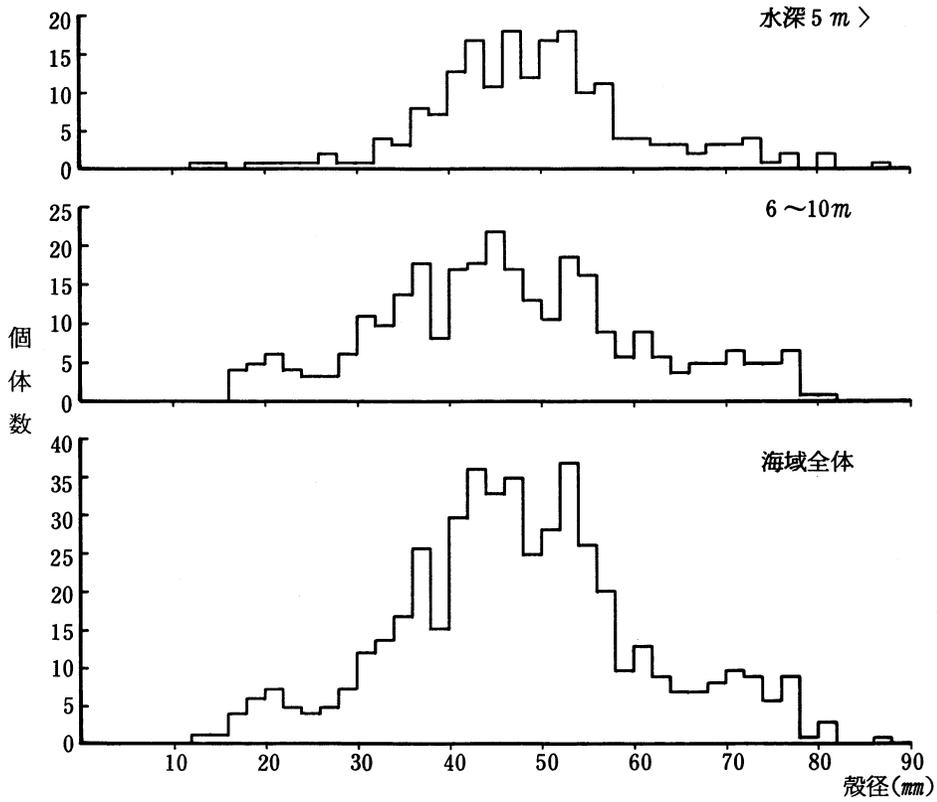
植物では、モク類11種（スギモク・フシスジモク・ヨレモク・ヤツマタモク・アカモク・ジョロモク・エゾノネジモク・トゲモク・マメダワラ・ノコギリモクおよびホンダワラ）・コンブ・ツルアラメ・アオノリ類・マクサ・アミジグサおよびスガモの分布がみられた。量的に多いのはコンブ・ジョロモクおよびツルアラメであったが、コンブ・ツルアラメは局所分布であり、ジョロモクは1本の重量が大で、採集したのは全部で38本にすぎなかった。モク類が概ね水深5m以浅に分布するのに対し、ツルアラメおよびコンブは水深6～21mに分布が多い。またツルアラメは岩盤に、コンブは転石（概ね径10cm以上）に多い傾向がみられた。



第2図 サザエの殻高組成



第3図 アワビの殻長組成



第4図 キタムラサキウニの殻径組成

(2) サザエの棲み場特性

a. サザエの分布密度と水深の関係

サザエの分布密度は、水深5m以浅が0.85個/m<sup>2</sup>、水深6~10mが0.25個/m<sup>2</sup>、水深11~15mが0.08個/m<sup>2</sup>、水深16~21mが0個/m<sup>2</sup>となっており、概ね水深10m以浅に分布し、特に水深5m以浅に集中していることがわかる(第2表)。

b. サザエの分布密度と底質の関係

サザエの分布密度は、転石域の0.12個/m<sup>2</sup>に対し、岩盤域では0.75個/m<sup>2</sup>と高かった(第2表)。

第2表 サザエの分布密度と水深および底質の関係

水深(m)	底質		岩 盤 (個/m <sup>2</sup> )	転 石 (個/m <sup>2</sup> )	平 均 (個/m <sup>2</sup> )
	岩	盤			
5	≥		1.27	0.09	0.85
5	~	10	0.41	0.14	0.25
10	~	15	0.08	(0)	0.08 (0.06)
15	~	20	0	(4.50)	0 (0.45)
平 均			0.75	0.12 (0.27)	0.50

( )は調査面積が小さい為の参考値である。

c. サザエの殻高と水深の関係

サザエの殻高は水深5m以浅が平均32.7mm、水深6~10mが32.6mm、水深11~15mが30.4mmと大差はないものの、浅所ほど大型である(第2図および第3表)。従来からサザエについては浅所に若令貝が多いといわれているが、水深5m以浅はサザエの分布密度が極端に高いことと、大型貝が漁獲されることにより、結果的にそのような結果になっているのであろう。また今回の調査では水深21m(st. 3)で若令貝ばかりが採捕されており、これがこの地点だけの特異的現象なのかどうかを今後確認する必要がある。

d. サザエの殻高と底質の関係

サザエの殻高は岩盤域の平均34.8mmに対し、転石域では45.8mmと大きい(第3表)。このことは、転石は岩盤のような溝やくぼみが少ないため若令貝の分布が少ないことによると考えられる。ただしst. 3のように転石下に若令貝ばかりが分布する特異な場所もみられ、今後の健討を要する。

第3表 サザエの殻高と水深および底質の関係

水深(m)	底質		岩 盤 (mm)	転 石 (mm)	平 均 (mm)
	岩	盤			
5	≥		36.8	45.3	37.2
5	~	10	31.9	46.3	32.6
10	~	15	30.4	—	30.4
15	~	20	—	(26.3)	(26.3)
平 均			34.8	45.8 (34.4)	34.7

( )は調査点が1である為の参考値である。

e. サザエ生息数と転石の部位の関係

転石域で採捕されたサザエは転石の表面（転石を動かさないで肉眼視できる部位のこと）の11個に対し、裏面は112個と生息数が多い（第4表）。

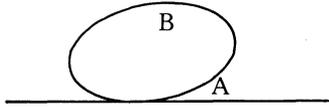
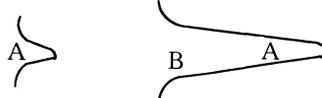
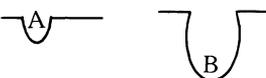
f. サザエ生息数と岩盤の部位の関係

岩盤域で採取されたサザエは岩盤の表面（溝やくぼみの中以外の部位のこと）の57個に対し、溝やくぼみの中は204個と生息数が多い（第4表）。

g. その他

その他サザエの生息数と岩盤の微細形状（溝の方向・巾・深さおよびくぼみの径・深さ）の関係を第4表に示した。

第4表 サザエ採捕数と転石および岩盤の部位の関係

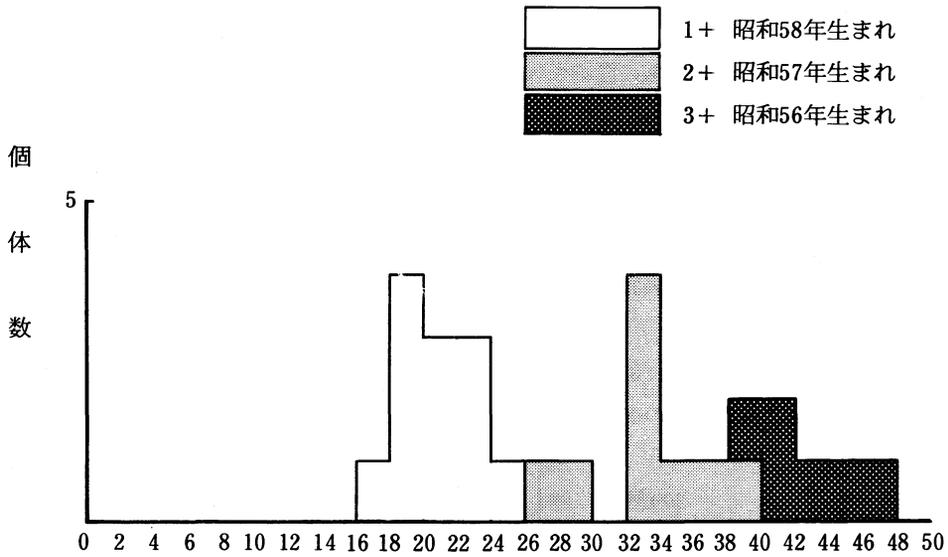
転石		裏面 : 表面	
		112個 : 11個	
岩盤	盤面の形状	溝またはくぼみの中 : 外	
	溝の方向	水平 : 垂直	
	溝の巾	殻高の2倍以上 : 以下	
	溝の深さ	関係がないように思われたが、サザエは溝の巾が殻高の2倍以下の位置に多い。	
	くぼみの径	殻高の3倍以下 : 以上	
	くぼみの深さ	殻高の3倍以下 : 以上	

A : 採捕数多い

B : 少ない

(3) サザエの年令と成長

採捕したサザエの一部について年令と殻高の関係を調べたので、参考までに以下に記す。それによると昭和58年生まれのサザエ（2才+ $\alpha$ ）の今冬の成長停止期における殻高は16~26mmであった（第5図）。



第5図 サザエの蓋による年令査定

殻高 (mm)